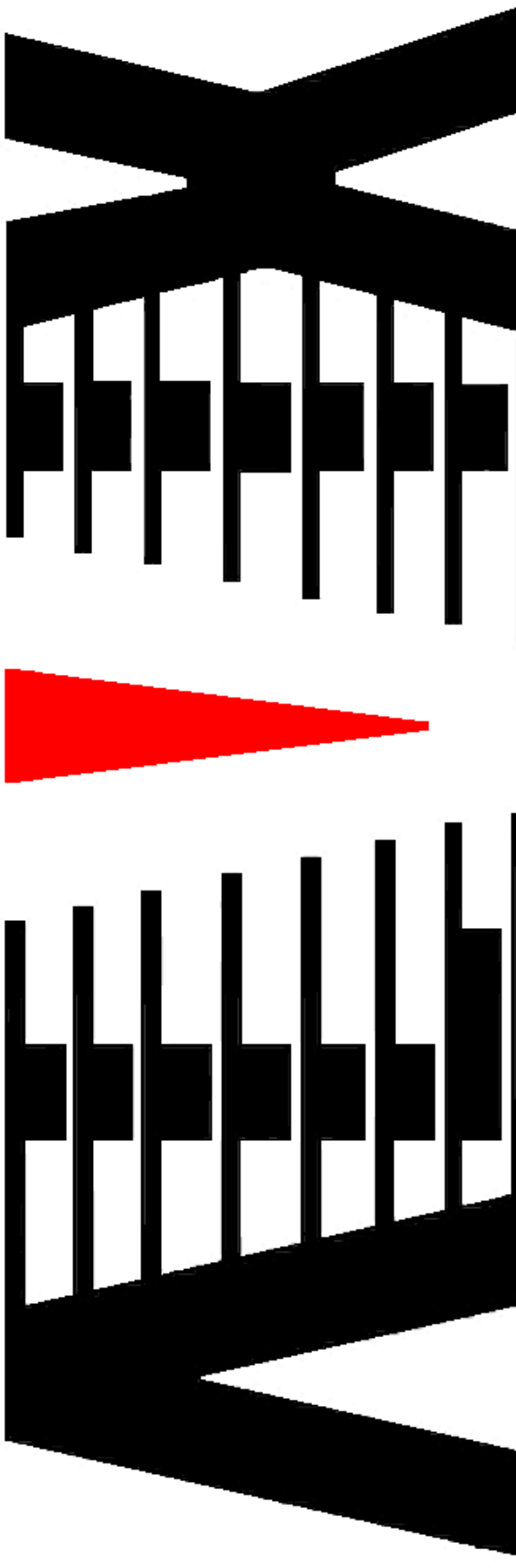
“アルビクス” 共聴施設スーパー装置
IFS-10WR

取扱説明書

V0. 2



御使用の前に必ず本取扱説明書をよく読んで理解して、安全の為の指示に従って下さい。
もし、不明点が有れば販売店か弊社におたずね下さい。

目　次

御使用上の注意事項……２
1.　主な機能と特徴……３
2.　仕様……４
3.　各部の名称と機能……５
4.　設置手順……７
5.　スーパー挿入チャンネル変更手順……１６
6.　カスケード接続（スーパー２チャンネル挿入）……１８
7.　屋外での設置について……２１
8.　ポールへの設置について……２３

御使用上の注意事項

必ずお守り下さい（安全にお使いいただくために）

警告

◇　内部に液体をこぼしたり、燃え易い物や金属類を落としてはいけません。
（火災や感電、故障の原因となります。）

◇　煙が出たり、異常音、臭気などに気が付いたときは、すぐに電源コードを抜いて販売店に御連絡下さい。

注意

◇　電源プラグの接続が不完全なまま使用しない。
（感電やショート、火災の原因となります。）

◇　電源コードを引っ張ったり、重いものをのせたりしない。
（電源コードが損傷し、火災や感電の原因となります。）

◇　電源コードを引っ張ってコンセントから抜かない。
（感電やショート、火災の原因となります。）

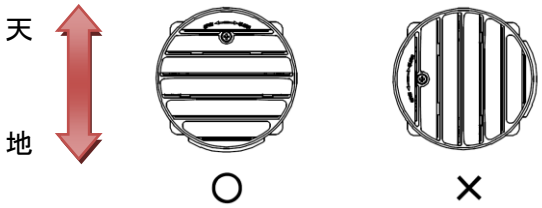
◇　仕様にて規定された電源電圧以外では使用しない。
（火災や感電の原因となります。）

お願い

◇　風通しの悪い所に置いたり、布などで通風孔を塞いだりしないで下さい。
（故障の原因となります。）

◇　次の様な所には置かないで下さい。
湿気の多い所、油煙や湯気の当たる所、直射日光の当たる所、熱器具の近く
埃の多い所、強い磁気のある所、極端に寒い所、極端に暑い所、激しい振動のある所、安定しない台の上、傾いた所
（故障の原因となります。）

◇　屋外での設置時は、設置状態に合わせてルーバーの向きを変えてください。
取付け姿勢は防水性能上重要となりますので、必ず確認をして下さい。



1.　主な機能と特徴

◇ＮＴＳＣアナログテレビ放送のＲＦ信号に、
　文字などのスーパーを合成して出力する装置です。

◇スーパーを合成するチャンネルは、本体設定および
　本体に実装する合波ユニットによって指定されます。
　その他のチャンネルはバッファスルー出力となります。

◇スーパー文言（文字）は、固定スーパー２種、
　スクロールスーパー２種を登録可能です。
　　＜固定スーパー＞
　　　　表示文字数　　：２０文字×１４行＝２８０文字
　　＜スクロールスーパー＞
　　　　表示文字数　　：２０文字
　　　　総文字数　　：２５６文字

◇スーパーのテイク条件を設定できます。

◇本装置の電源 OFF 時にはＲＦ信号をバイパスします。

◇携帯電話通信網を使用してインターネットに接続しますので、
　通信可能地域であれば遠隔から本装置の設定制御が可能です。

◇屋外に設置できます。（直射日光不可）

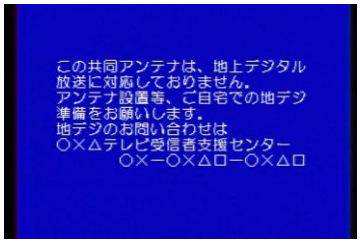


図 1.1　固定スーパー

図 1.2　スクロールスーパー

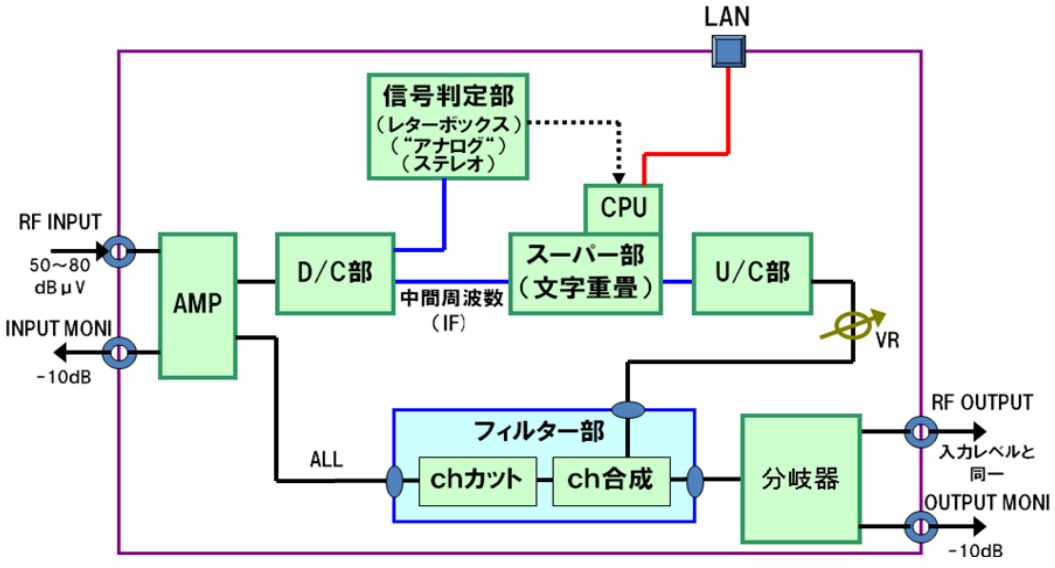


図 1.3　基本的な信号の流れ

2. 仕様

アナログテレビ信号	入力		信号形式	ＲＦ
			接栓	Ｆコネクタ
	出力		信号形式	ＲＦ
			接栓	Ｆコネクタ
	モニタアウト	入力信号	信号形式	ＲＦ
			接栓	Ｆコネクタ
		出力信号	信号形式	ＲＦ
			接栓	Ｆコネクタ
電源			ＡＣ １００Ｖ	
			コネクタ	ＮＪＷ－１６３－ＲＭ （七星科学研究所）
外形寸法			Ｈ４６０×Ｗ３５０×Ｄ２０１　（mm） （突起含まず）	
重量			約8kｇ	
消費電力			約２３Ｗ （ルータ実装時：約３０Ｗ）	
皮相電力			約４５ＶＡ （ルータ実装時：約５８ＶＡ）	
使用温度			０℃　～　４０℃	

3.　各部の名称と機能

3.1. 外部

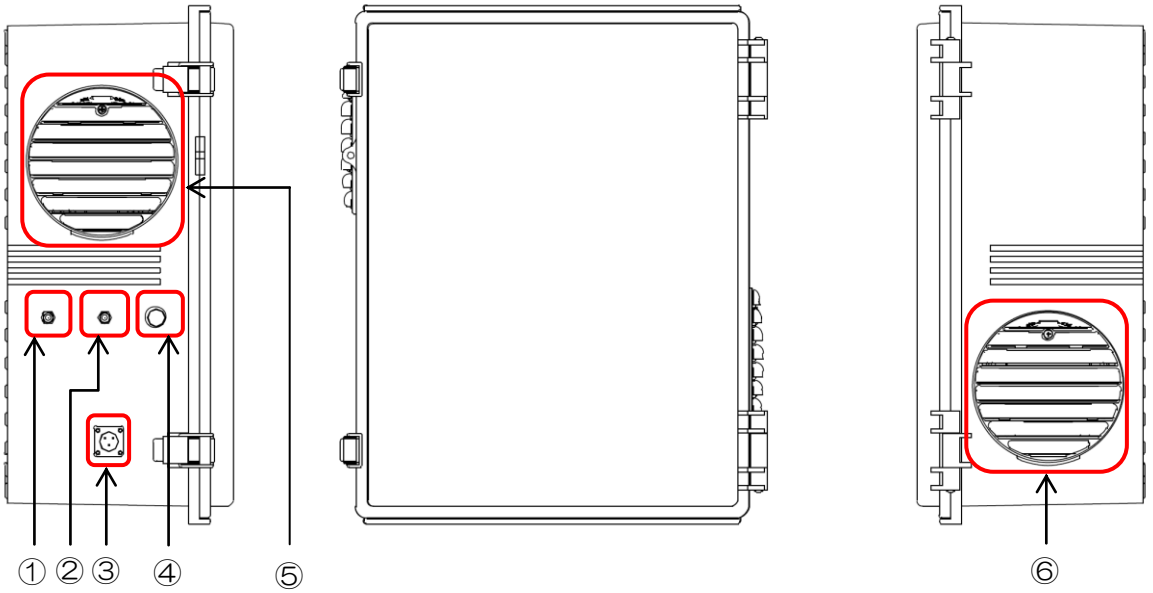


図 3.1　外観図

①ＲＦ入力コネクタ
　　アナログテレビ信号を入力します。

②ＲＦ出力コネクタ
　　文字スーパーを合成したアナログテレビ信号を出力します。

③ＡＣ入力
　　本装置の電源入力（ＮＪＷ－１６３－ＲＭコネクタ）です。

④ＰＯＷＥＲランプ
　　電源 ON で LED が点灯します。

⑤ファン付きルーバー
　　強制換気用のファン付きルーバーです。

⑥ルーバー
　　換気用のルーバーです。

3.2. 内部

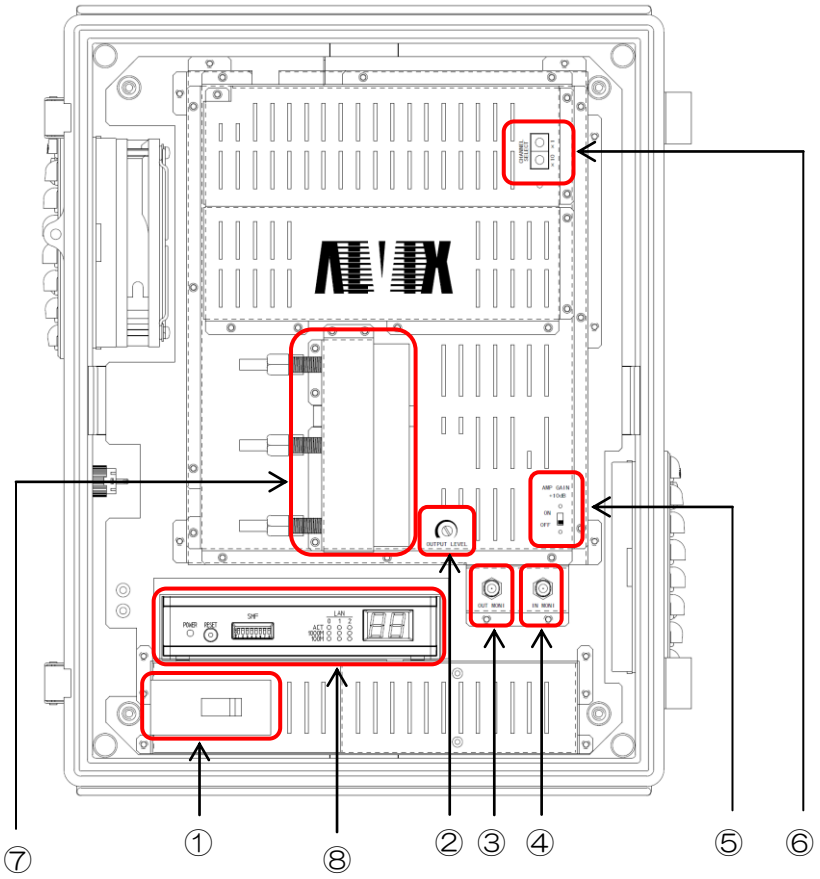


図 3.2　内容図

① 漏電遮断器
　　本装置の電源ＯＮ／ＯＦＦを行います。

② 出力レベル調整つまみ
　　出力レベルを調整できます。

③ 出力モニタ端子
　　出力レベルを確認できます。実信号の－１０ｄＢの値が測定されます。

④ 入力モニタ端子
　　入力レベルを確認できます。実信号の－１０ｄＢの値が測定されます。

⑤ ゲイン調整スイッチ
　　入力信号レベルが７０ｄＢμＶ（入力モニタ端子では６０ｄＢμＶ）
　　未満だった場合に、信号レベルを増幅するためのスイッチです。

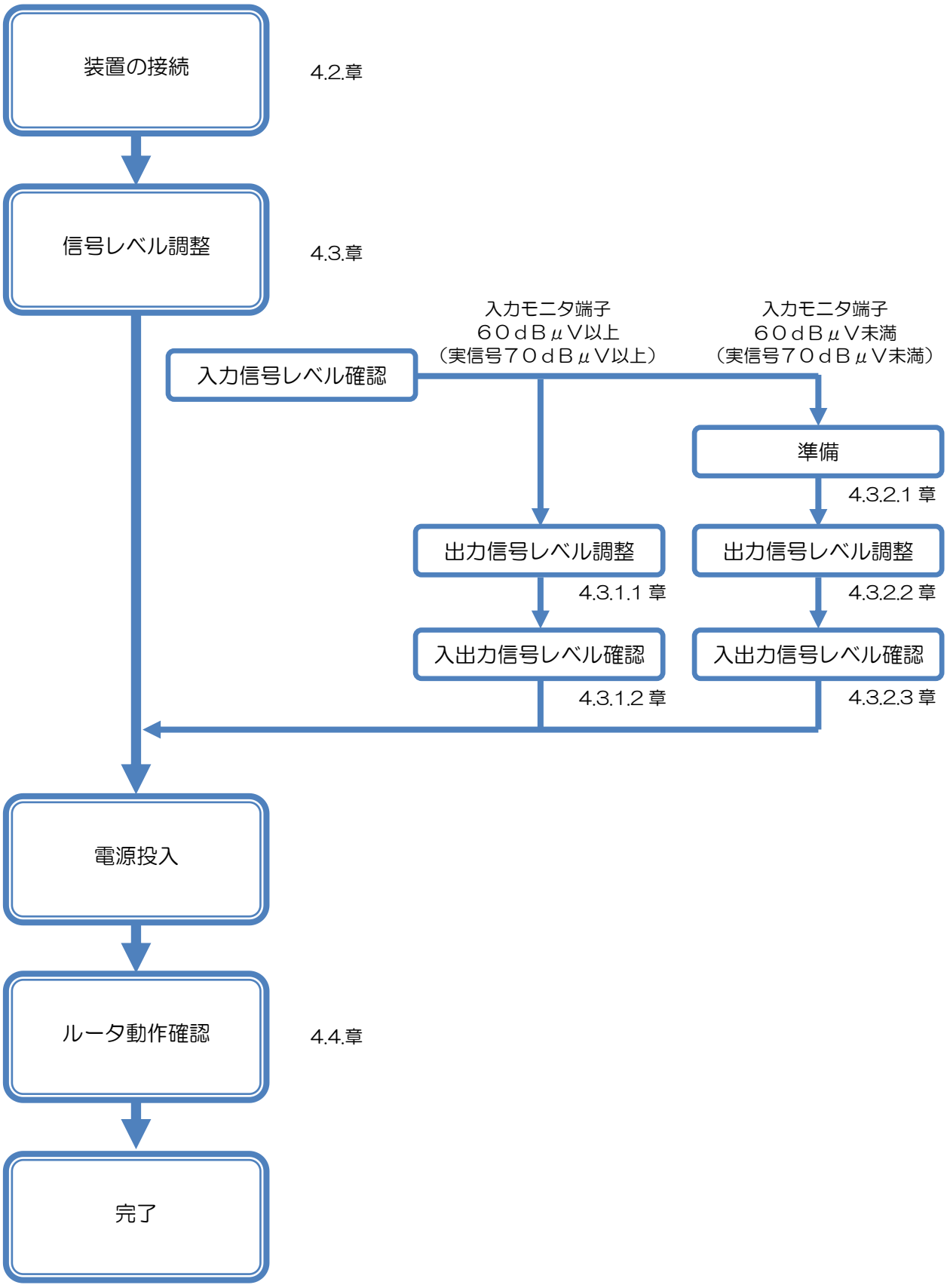
⑥ チャンネルセレクト
　　文字スーパーを合成するチャンネルを選択します。

⑦ 合波ユニット
　　文字スーパーを合成するチャンネル専用のユニットです。

⑦ ルータ
　　本装置をインターネット経由で遠隔制御するための装置です。

4. 設置手順

4.1. 設置のながれ



4.2. 装置の接続

1. アンテナからのＲＦ信号端子をＲＦ入力コネクタに接続します。
2. 受信施設へのＲＦ信号端子をＲＦ出力コネクタに接続します。
3. ゲイン調整スイッチがＯＦＦであることを確認します。
4. 漏電遮断器のスイッチを「入」にし、電源をＯＮします。

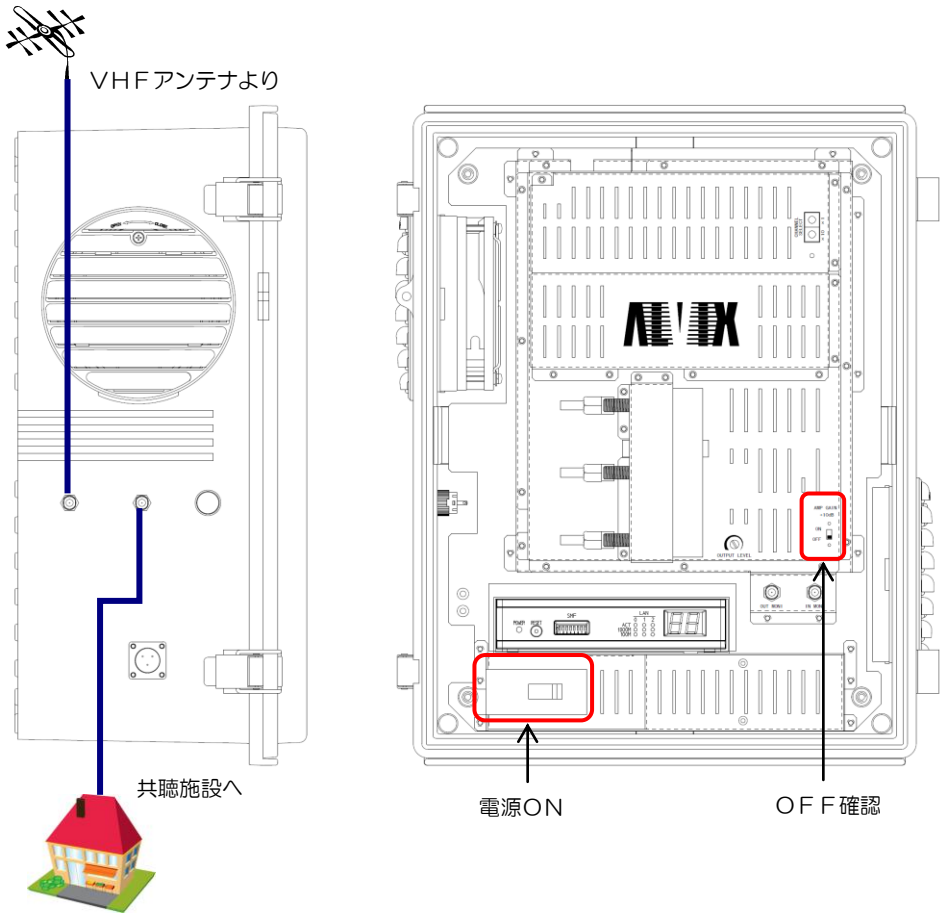


図 4.1　接続及び設定

4.3. 信号レベル調整

1. 入出力モニタ端子の終端コネクタを外し、スーパーを挿入するチャンネルの入力信号レベルを測定します。
2. 入力信号レベルがモニタ端子の測定で６０ｄＢμＶ以上だった場合と、６０ｄＢμＶ未満だった場合で調整方法が変わります。
   それぞれの項目を参照し調整を行います。
   （モニタ端子は－１０ｄＢの値が測定されますので、
   実信号では７０ｄＢμＶ以上か、未満かで判断します。）
3. 調整終了後、再度終端を取り付けてください。

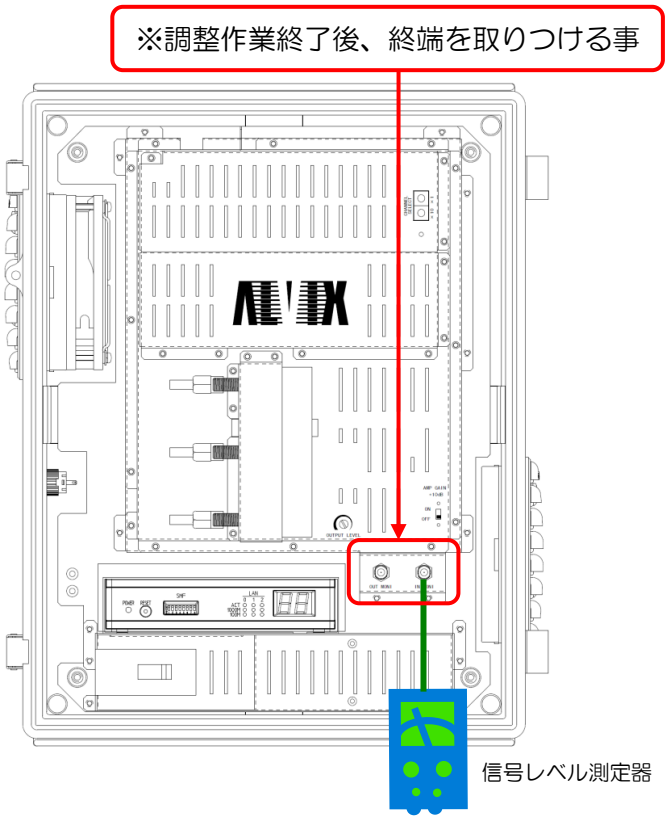


図 4.2　入力信号レベル確認

4.3.1. 入力信号モニタレベル６０ｄＢμＶ以上の場合

4.3.1.1. スーパー挿入チャンネル出力信号レベル調整

1. 信号レベル測定器を、出力モニタ端子に接続し、出力レベルを測定します。
2. 出力レベル調整つまみを回し、スーパー挿入チャンネルの出力レベルが当該チャンネルの入力レベルと同じ値になるように、調整します。

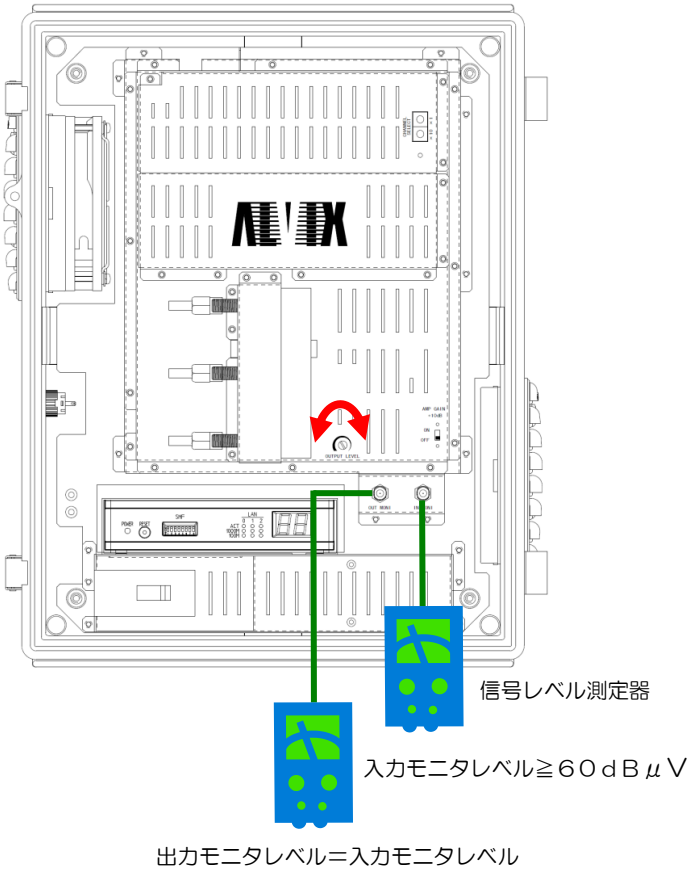


図 4.3　スーパー挿入チャンネルレベル調整（６０ｄＢμＶ以上）

4.3.1.2. バッファスルー入出力信号レベル確認

1. 信号レベル測定器を入力モニタ端子に接続し、スーパー挿入チャンネル以外の視聴チャンネル全ての入力レベルを測定します。
2. スーパー挿入チャンネル以外の視聴チャンネルの出力レベルが、それぞれ入力レベルの±５ｄＢμＶ以内になっていることを確認します。

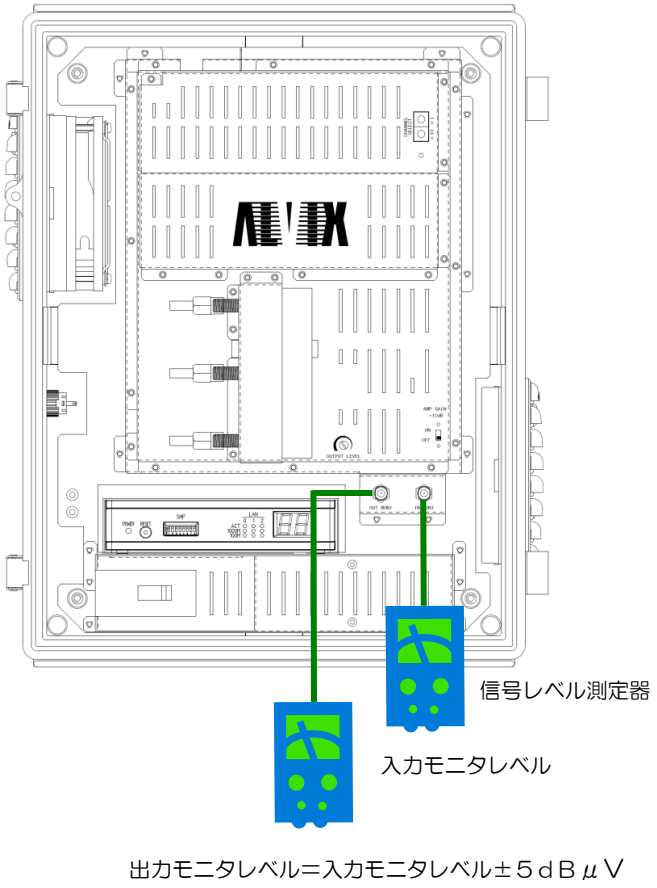


図 4.4　バッファスルーレベル確認（６０ｄＢμＶ以上）

4.3.2. 入力信号モニタレベル６０ｄＢμＶ未満の場合

4.3.2.1. 準備

1. ゲイン調整スイッチをONにします。
2. ＲＦ出力コネクタとケーブルとの間に付属の－１０ｄＢアッテネータを接続します。

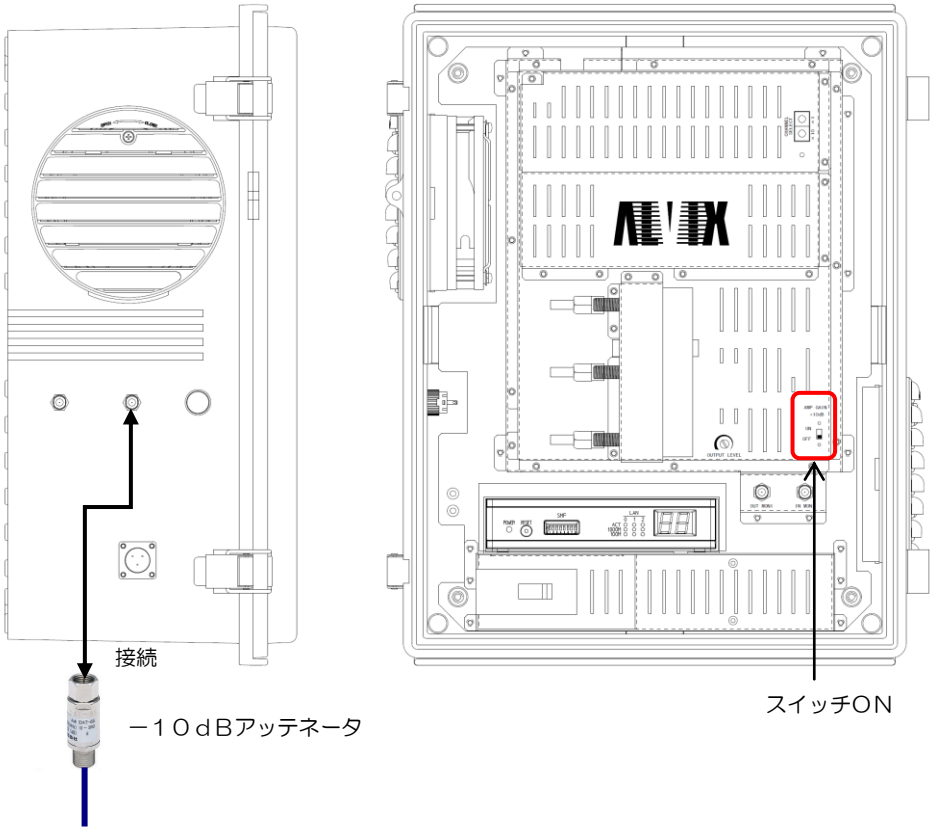


図 4.5　ゲイン調整

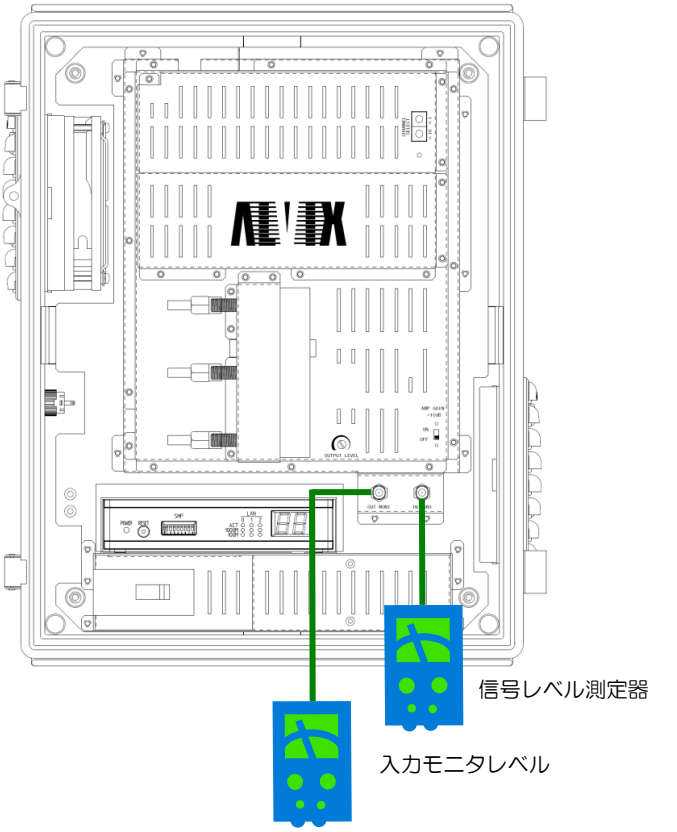
4.3.2.2.　スーパー挿入チャンネル出力信号レベル調整

1. 信号レベル測定器を、出力モニタ端子に接続し、出力レベルを測定します。
2. 出力レベル調整つまみを回し、スーパー挿入チャンネルの出力レベルが当該チャンネルの入力レベル＋１０ｄＢμＶになるように、調整します。（例：入力が５１ｄＢμＶだった場合、出力は６１ｄＢμＶのこと）

図 4.6　スーパー挿入チャンネルレベル調整（６０ｄＢμＶ未満）

4.3.2.3.　バッファスルー入出力信号レベル確認

1. 信号レベル測定器を入力モニタ端子に接続し、スーパー挿入チャンネル以外の視聴チャンネル全てのレベルを測定します。
2. スーパー挿入チャンネル以外の視聴チャンネルのレベルが、それぞれ入力レベル＋１０ｄＢμＶの±５ｄＢμＶ以内になっていることを確認します。
（例：入力が５１ｄＢμＶだった場合、
出力は６１ｄＢμＶ±５ｄＢμＶのこと）



出力モニタレベル＝（入力モニタレベル＋１０ｄＢμＶ）±５ｄＢμＶ

図 4.7　バッファスルーレベル確認（６０ｄＢμＶ未満）

4.4. ルータ動作確認

4.4.1. 各部名称

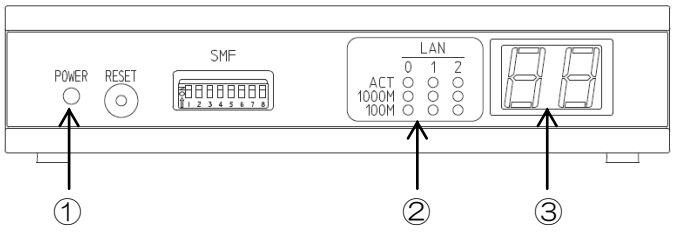


図 4.8　ルータ外観図

①ＰＯＷＥＲ ＬＥＤ ランプ
　　電源投入時に点灯するＬＥＤランプです。

②ＬＡＮ ＬＥＤ ランプ
　　ＬＡＮの動作状態を表すＬＥＤランプです。

③ＳＴＡＴＵＳ ＬＥＤ ランプ
　　本機の動作状態を表す、小数点付き７セグメントＬＥＤランプです。

4.4.2. 動作確認

1. 本装置の電源投入後、ルータのＰＯＷＥＲ ＬＥＤ ランプが点灯していることを確認してください。
2. フロントパネルのＬＡＮ0のＡＣＴが点灯していることを確認してください。
3. 電源投入から約３分後、ＳＴＡＴＵＳ ＬＥＤ ランプに“ｄ１”～“ｄ５”のいずれかが表示されたら正常です。

＜ＳＴＡＴＵＳ ＬＥＤ ランプの表示について＞

ネットワークに接続後、ＳＴＡＴＵＳ ＬＥＤ ランプに“ｄＮ”（Ｎは数値）と表示されます。
Ｎは電波強度を表しており、0は圏外、１が最も弱い、５が最も強いを表しています。

３分経過しても“ｄＮ”が表示されない場合、
モバイル通信端末が正しく接続されているか、確認してください。

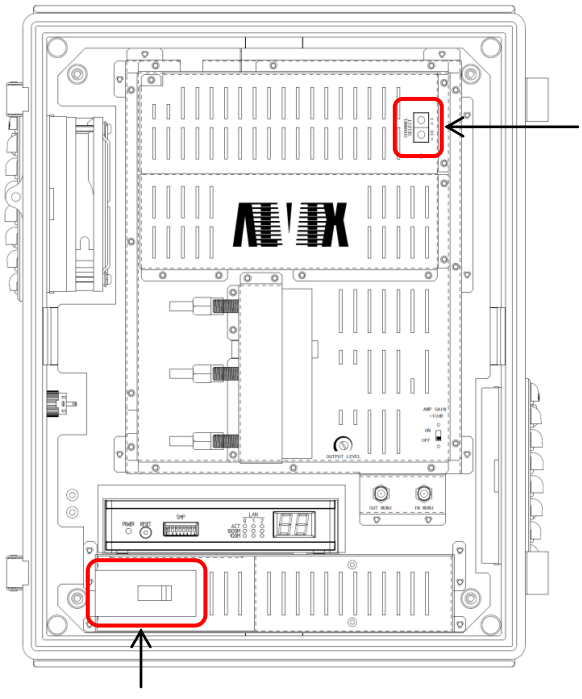
※注意
ルータは出荷時に共聴施設スーパー装置と連動して動作するように設定されています。
フロントパネルのリセットスイッチやディップスイッチには触れないようにしてください。

5.　スーパー挿入チャンネル変更手順

◇スーパーを挿入するチャンネルは、本体設定および実装する合波ユニットによって
決定されるため、スーパー挿入チャンネルを変更したい場合、下記の手順に従い、
ロータリースイッチによる設定変更及び合波ユニット交換を行ってください。

5.1. 変更手順

1. 本装置の電源を切ります。
2. チャンネルセレクトを回し、スーパーを挿入したいチャンネルに変更します。
（チャンネルセレクトは×１が１の位、×１０が１０の位を示します。）



※1　例：４チャンネルにスーパーを入れる場合、
×１０を0、×１を4と設定します。

図 5.1　チャンネル設定

3. 合波ユニットを固定しているバンドを外します。
4. 合波ユニットに接続されている赤、白、青、３本のＦコネクタを取り外し、スーパーを挿入するチャンネルに対応した合波ユニットに交換します。
5. 交換した合波ユニットの赤、白、青、それぞれの端子の色と同じ色のＦコネクタのケーブルを接続します。

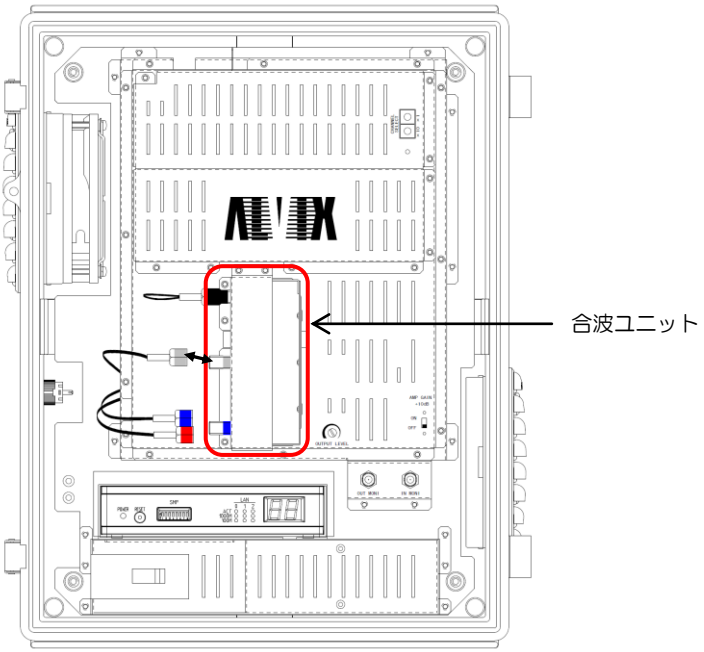


図 5.2　合波ユニット交換

6. 合波ユニットをバンドでしっかり固定します。
7. 本装置の電源を再投入し変更完了です。

6.　カスケード接続（スーパー２チャンネル挿入）

◇本装置を２台カスケード接続することで、スーパーを挿入するチャンネルを
　２チャンネルに増やすことができます。

6.1. 設置手順

1. 本装置を２台用意します。
2. アンテナからのＲＦ信号端子を本装置１台目のＲＦ入力コネクタに接続します。
3. 受信施設へのＲＦ信号端子を本装置２台目のＲＦ出力コネクタに接続します。
4. 本装置１台目のＲＦ出力コネクタと本装置２台目のＲＦ入力コネクタを
   接続します。
5. ゲイン調整スイッチが２台ともＯＦＦであることを確認します。
6. 本装置の電源を入れます。
7. 信号レベル調整を行い、設置完了です。
   （信号レベル調整の詳細は６．２章参照）

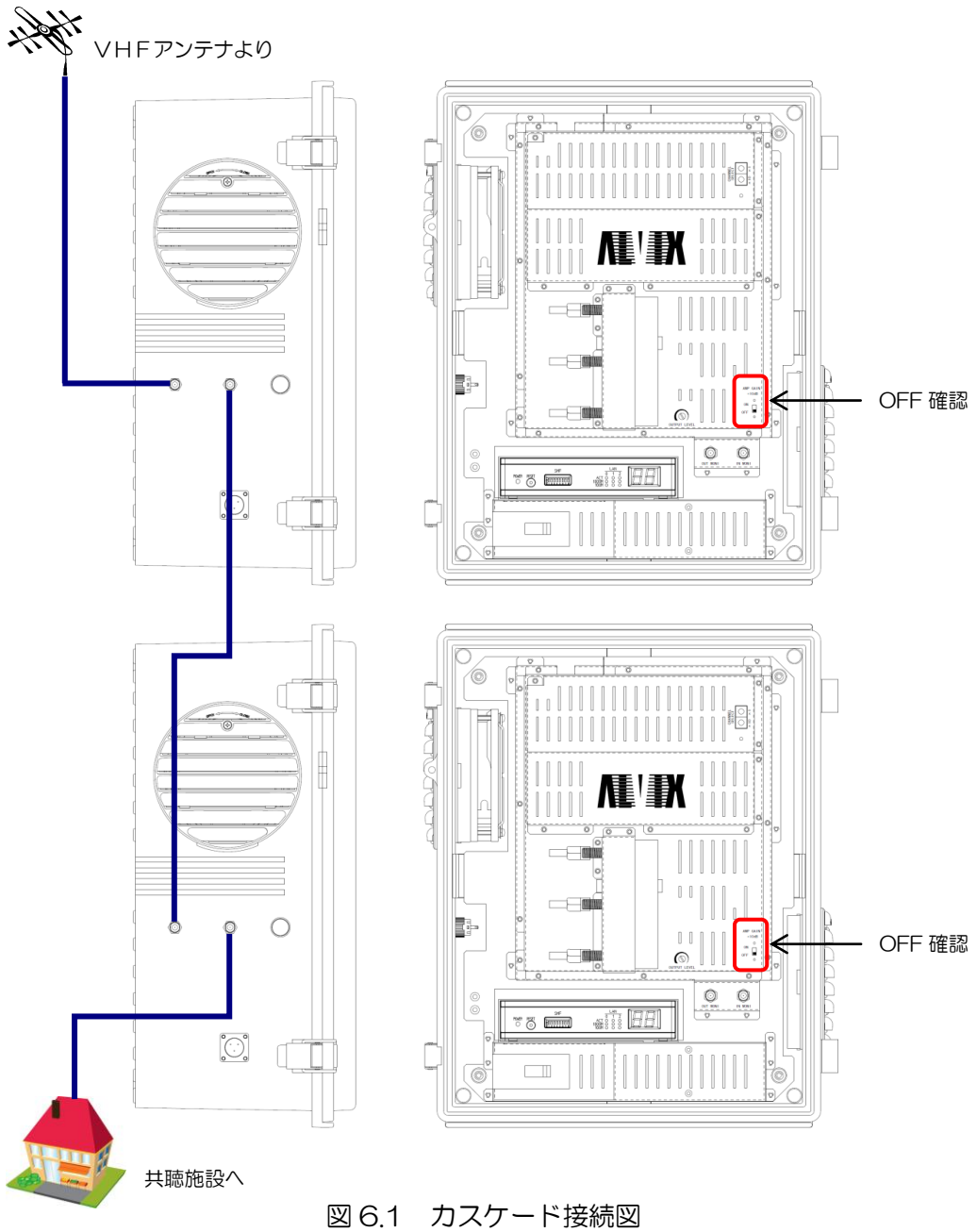


図 6.1　カスケード接続図

6.2. 信号レベル調整

1. 信号レベル測定器を１台目の入力モニタ端子に接続し、
   １台目のスーパー挿入チャンネルの入力レベルを測定します。

2. 入力信号レベルが６０ｄＢμＶ以上だった場合と、６０ｄＢμＶ未満だった場合で調整方法が変わります。それぞれの項目を参照し調整を行います。

6.2.1. 入力信号モニタレベル６０ｄＢμＶ以上の場合

1. １台目、２台目それぞれの信号レベル調整を、４．３．１章と同様に行います。

6.2.2. 入力信号モニタレベル６０ｄＢμＶ未満の場合

1. １台目のゲイン調整スイッチのみをＯＮにします。（２台目はＯＦＦ）

2. ２台目のＲＦ出力コネクタとケーブルの間に付属の－１０ｄＢアッテネータを挿入します。

3. 信号レベル測定器を１台目の出力モニタ端子に接続し、
   出力レベルが１台目の当該チャンネルの入力レベル＋１０ｄＢμＶ
   になるように調整します。
   （例：入力が５１ｄＢμＶだった場合、出力は６１ｄＢμＶのこと）

4. １台目のスーパー挿入チャンネル以外の視聴チャンネルの出力レベルは、
   １台目の入力レベル＋１０ｄＢμＶの±５ｄＢμＶ以内になっていることを確認します。
   （例：入力が５１ｄＢμＶだった場合、出力は６１ｄＢμＶ±５ｄＢμＶのこと）

5. 信号レベル測定器を２台目の入力モニタ端子に接続し、
   スーパー挿入チャンネルの入力レベルを確認します。

6. 信号レベル測定器を、２台目の出力モニタ端子に接続し、
   出力レベルが２台目の当該チャンネルの入力レベルと同じ値になるように、
   出力レベル調整つまみを回し、調整します。

7. ２台目のスーパー挿入チャンネル以外の視聴チャンネルの出力レベルは、
   ２台目の入力レベルの±５ｄＢμＶ以内になっていることを確認します。

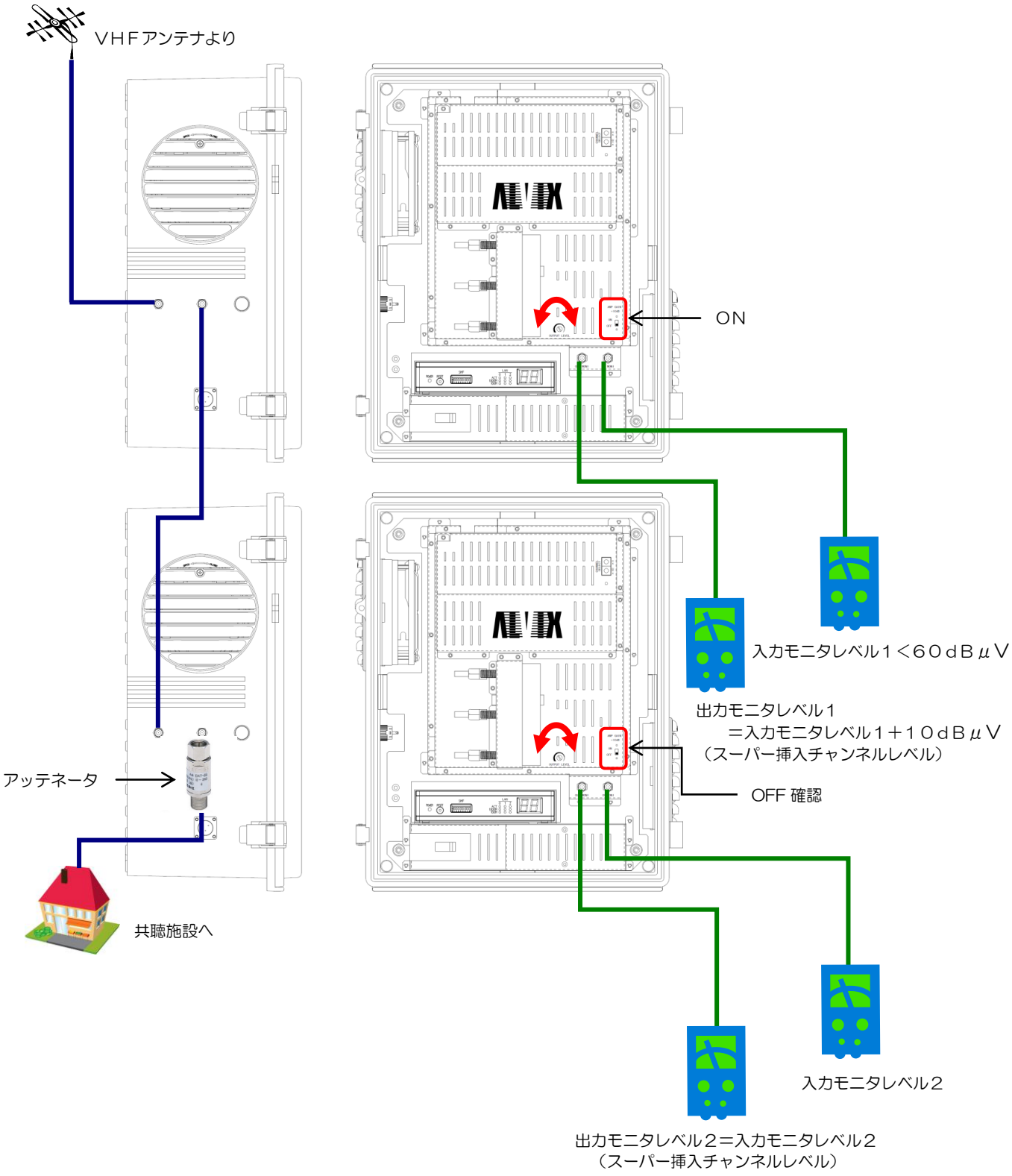


図 6.2　６０ｄＢμＶ未満時のカスケード接続図

7.　屋外での設置について

◇本装置を屋外で使用する場合、防水性能上立てて設置する仕様となっています。
本装置を屋外にて寝かせてご使用になりたいときは、本章の手順に従い、
ルーバー向きの変更を行って下さい。

7.1. ルーバー各部名称

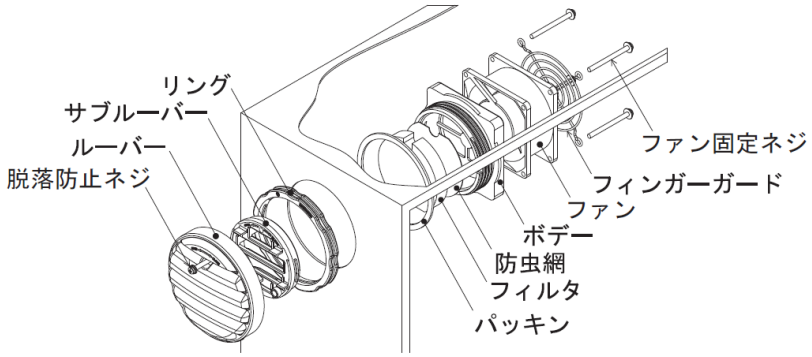


図 7.1　各部名称

※ルーバーのみの場合、ファン、フィンガーガード、ファン固定ネジが付きません。

7.2. 取り付け方向

設置状態に合わせ、図 7.2 に従い、天地方向をお間違えの無いよう取り付けてください。

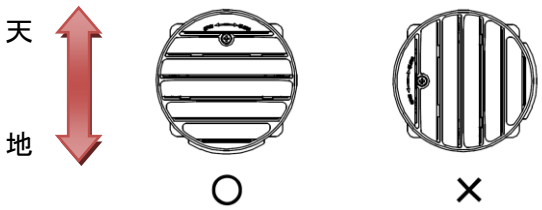


図 7.2　取り付け方向

7.3. 取り外し方法

1. 脱落防止ネジを緩めます。
2. ルーバーを左方向に回転させ、ルーバー、サブルーバーを外します。
（ルーバー、サブルーバーは左方向に回転させると同時に外れます。）
3. リングを外すと、キャビネットからボデーを取り外せます。

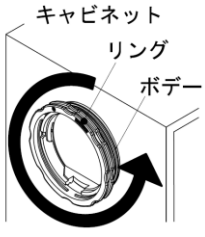


図 7.3　取り外し方法

7.4. 取り付け方法

1. 取り付け方向を確認します。
2. 設置した時、ボデーの切りかきが下になるように、キャビネットにボデーを取付けます。
3. リングをボデーに締め付け、キャビネットに確実に固定してください。

推奨締付トルク
15.0 [N・m]

図 7.4　取り付け方法

4. 締め付けが不十分な場合、防水性能に影響しますので、リング締め付け後はルーバーにがたつきがないことを確認してください。ただし、ボデーが変形、破損する恐れがありますので、締め付けすぎにはご注意ください。
5. ルーバーをボデーに取り付けてください。左約４０度に傾けた状態から右方向に回転させると取り付けられます。

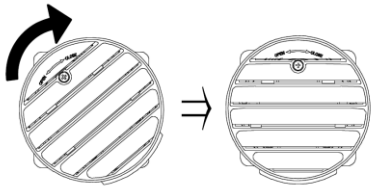


図 7.5　ルーバー取り付け

6. 脱落防止ネジを締め付けてください。（締付トルク：1.0[N・m]）
7. 設置した時のルーバーの向きが図 7.6 のようになっていることを確認してください。
8. ルーバーは、ファン付きとファンなしの物がそれぞれ左右に 1 個ずつ付いています。向きの変更は 2 個ともに行ってください。

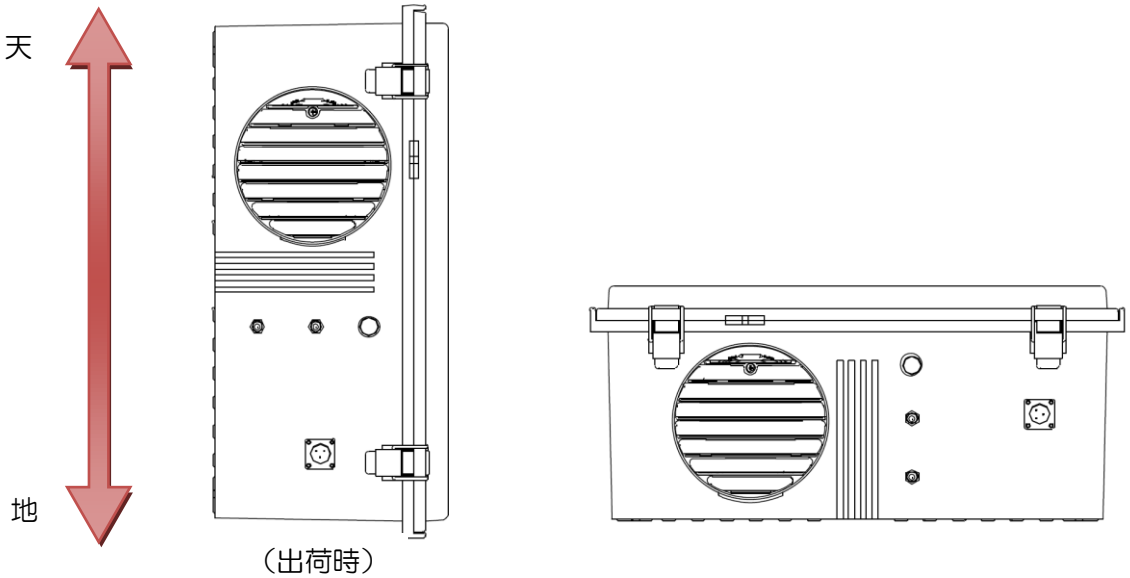


図 7.6　設置状態

8. ポールへの設置について

◇本装置は下記市販品の使用により、ポール・電柱への設置が可能となっています。

品名	型番	メーカー
ポール取付金具	SSK-350	(株)タカチ電機工業
ポール固定用ベルト	PKB-10S	

図 8.1　ポールへの取り付け

お問い合わせ先

お買い上げいただきました弊社製品についてのアフターサービスは、お買い上げの販売店におたずねください。
なお、販売店が不明の場合は弊社へお手数でもご連絡ください。

故障・保守サービスのお問い合わせは

販売店：

ＴＥＬ
担　当

製品の操作方法に関するお問い合わせは

無断転載禁止

アルビクス株式会社
〒９５９―０２１４
新潟県燕市吉田法花堂１９７４－１
ＴＥＬ：０２５６－９３－５０３５
ＦＡＸ：０２５６－９３－５０３８